

様式第2号（8関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	平成28年度第1回ひたちなか市環境審議会	
開 催 日 時	平成28年6月3日（金）14時00分～15時40分	
開 催 場 所	ひたちなか市役所第3分庁舎2階防災会議室3	
出 席 者	委員（者）氏名	蝦名会長，間瀬委員，黒澤（由子）委員，川越委員， 玉川委員（代理：鬼沢氏），黒澤（昭）委員，菊地委員， 小林委員，飛田委員，栗原委員，小川委員
	担当部課職員職氏名	須藤雅由市民生活部長， 川崎誠司環境保全課長， 桐原隆史同課課長補佐兼環境保全係長， 武石道広同課環境対策係長，綿引靖同課環境保全係主幹， 黒沢俊彦同課環境保全係主事， 広瀬渡廃棄物対策課主任，福家一真同課主事
会 議 次 第 及 び 会 議 の 公開又は非公開の別	ひたちなか市環境審議会委嘱状交付式次第 1 委嘱状交付 2 副市長挨拶 ひたちなか市環境審議会次第 1 開会 2 会長・副会長選出 3 会長挨拶 4 審議会設置条例及び運用規定説明 5 報告事項 ・ひたちなか市第2次環境基本計画の見直しについて 6 その他 7 閉会	
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開とした場合)		
傍 聴 者 の 数	0名	
会 議 資 料 の 名 称	No.1 ひたちなか市環境審議会委員名簿 No.2 ひたちなか市附属機関の設置に関する条例 No.3 ひたちなか市環境審議会運営規程 No.4 ひたちなか市第2次環境基本計画(新委員は事前送付) No.5 ひたちなか市第2次エコオフィス計画	
会 議 録 の 作 成 方 法	要約方式	
そ の 他		

審議内容（発言者，発言内容，審議経過，決定事項等）	
副市長	<p><u>ひたちなか市環境審議会委嘱状交付式</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 委嘱状交付 2 副市長挨拶
事務局	<p><u>ひたちなか市環境審議会</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長・副会長選出 →会長：蝦名委員 副会長：半田委員
会長	<ol style="list-style-type: none"> 3 会長挨拶 →会長より挨拶があった。 出席委員,事務局より各自自己紹介を行った。
事務局	<ol style="list-style-type: none"> 4 審議会設置条例及び運用規定説明
事務局	<ol style="list-style-type: none"> 5 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・ひたちなか市第2次環境基本計画の見直しについて →リーディングプロジェクト達成状況をパワーポイントを使用し説明した。 <p>（以下，質疑応答）</p>
委員	<p>様々な活動しており，その実績の報告であったが，可能であれば，計画を立てるときに，数値化できるような目標を設定した方が評価しやすいのではないかと考えている。啓発活動等について数値化することは難しいと思うが，今後は数値で評価できるようにした方がいいと思う。</p>
事務局	<p>我々としても，数値化できるものは目標値を設定していきたいと考えている。また，当計画のリーディングプロジェクトでは独自に力を入れられるものと他の計画に縛られることにより当計画として独自に力を入れられないものがあり，メリハリをつけて新しい計画案を立てていきたいと考えている。</p>

会長	<p>堆肥化について積極的に取り組んでおり、結構な量が堆肥化されているが、消費先はどうしたのか。</p>
委員	<p>生ごみ堆肥化については、完成した堆肥を何件かの農家に提供し、その堆肥で作った野菜（さといも）の味等について評価した。干しいもの加工残さの堆肥化については、J Aと協力して取り組んだものであり、完成した堆肥はJ Aに提供した。</p>
会長	<p>現在、完成した堆肥は農家に配るといった試験的な段階であると思うが、今後、ひたちなか市ブランドとしてその堆肥で作った農産物を販売することができれば、農業の活性化に繋がっていくと思う。</p>
委員	<p>堆肥化することで循環型社会になり、非常にいいことである。これまでは実証試験であり、今後はもっと輪を広げて、蝦名会長が言うようなことも取り組んでいくべきだと思う。</p>
委員	<p>堆肥化にJ Aが絡んでいることについて、恥ずかしながら、全く知らなかった。堆肥がどのようになっているのか、今後どのように展開していくのかを戻ったら確認し、次回、審議会に出席することができれば報告したい。東海村については、堆肥化に取り組んでいることは把握していたが、ひたちなか市については調べてくる。</p>
委員	<p>茂木市では、町をあげて堆肥化に取り組んでおり、落ち葉を買い上げて役所の工場で堆肥化し、道の駅での販売や農家への提供等を行っている。やはり行政がやらないと、このような取り組みはできないのかなと思う。</p>
事務局	<p>議会でも同様な質問があり、循環型にするためには、需要者に生ごみ堆肥を利用してもらわないといけないが、需要者（農家）としては、安定的な品質が必要であり、なかなか生ごみ堆肥の利用に踏み込めない状況である。市としては、供給に需要が追いつかない現在の状況を考えると、市が積極的に事業として展開することは難しいと考えている。今後は、</p>

委員	<p>定期的に開催している意見交換会（市，事業者，他団体）の中で，需要を掘り起こす取り組みも行っていかなければならないと考えている。現在の市のスタンスとしては，堆肥を活用できる地域が，循環型に取り組んでいくことが有効であると考えている。</p> <p>エコファーマーについて，エコファーマーになるとどんなメリットがあるのか，また市内で何%がエコファーマーなのか。BDF化について，旧式ディーゼルの車両が減っており，使い道を検討しているとの報告があったが，今後，積極的に廃食用油を集めた方がいいのか。集めても使い道がないのでは。</p>
事務局	<p>廃食用油を多く回収することで，助燃材として活用できるメリットがある。BDFについては，車両でしか使えないため，BDF対応の車両等が多ければ有効であるが，現在，車両製造側では，排ガス等の公害の観点からBDF対応車両を製造しなくなってきた。そのため，BDFを目的とした廃食用油の回収はメリットがなくなってきたが，廃食用油はボイラー等の助燃材としては有効であるため，そちらに方向を転換しながら活用していきたいと考えている。</p>
事務局	<p>エコファーマーのメリットについては，交付金による支援，農業改良資金の特例措置等が受けられることが挙げられる。市内のエコファーマーの割合については把握できていないため，担当課に確認する。</p>
委員	<p>堆肥化について，「ひたちなか市の環境を良くする会」で取り組み，市に提言書を提出したが，市の見解では，あまり積極的に取組まないということであり，ここで終わってしまったのは本当にもったいないと思う。今後，「ひたちなか市の環境を良くする会」では，継続的に広げて取組んでいく計画はあるのか。</p>
委員	<p>生ごみ堆肥化については市へ提言書を提出したこと，また，干しいも加工残さ堆肥化については昨年度堆肥が完成したこ</p>

委員	<p>とが、次のステップのための一つの区切りとなったと考えている。これから継続するかは現在検討しているところである。段ボールを利用した家庭の生ごみ堆肥化については、家庭菜園等が目的であるが、こちらは今後も継続して取組んでいく。</p> <p>エコドライブ普及啓発について、ノーマイカーデー通勤をした職員割合を数値化し評価しているが、この期間中に、ノーマイカー通勤した職員は、通常、車通勤している中でのノーマイカー通勤なのか、それとも、普段から車を使わない職員も含まれているのか。</p>
事務局	<p>この取り組みは県央地域の首長が集まる懇話会の中で一斉に実施しようというということで要請があり、もともとノーマイカー通勤している職員も含めて計上している。その時点で、どれだけの職員が環境に優しい通勤をしているのかを表したのがこの数値である。</p>
委員	<p>説明の内容は理解したが、評価としてはどうだろうか。数値で評価するのであれば、ノーマイカーデー期間を実施したことによる環境への影響の評価が必要であると思う。例えば、実施してないときと、どの程度違うか等。これが変わらないのであれば、外に向かってノーマイカーデーを実施しているということとは違うと思う。確かに、茨城でノーマイカーは厳しいと思うが、ノーマイカーデーを実施したということをお願いするのであれば、評価の仕方を検討すべきだと思う。</p>
事務局	<p>評価の仕方については、もっとわかりやすく改善したいと思う。</p>
会長	<p>例えば、4 km以上でノーマイカー通勤した職員には、奨励金等を考える必要があるのではないかと。</p>
事務局	<p>副市長も同様なことを言っており、アメとムチで、罰則は厳しいにしても、アメくらいはあげてもいいのではないかと。このことについては、審議会が出た意見でもあるので、検討</p>

<p>会長</p>	<p>してみようと思う。</p> <p>地産地消について、小学校等で農家の方が食育に係る講演等も行われているのか。</p>
<p>委員</p>	<p>学校独自で、例えば、地域の農家に来てもらって、食べ物の説明をしてもらったりすることもある。また、昨年度はJAに来てもらって、そら豆の皮むき体験や作り方の説明をもらった。学校としては、JAからの農産物のPRもあるので、それに協力して活動している。</p>
<p>委員</p>	<p>小学校によって異なり、小学校から逆に要請が来ることもある。また、給食部会というものがあり、給食部会が地元で取れた農産物を提供し、給食部会の役員やJAの職員と一緒に給食を食べながら話し合いや説明会をすることもある。今後は、地元で食べるものは地元で作らなきゃならないだろうと、これにいかに力を入れていくのかが我々の役割だと考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>茨城県は、食べ物が豊富であり、住みよいところであるが、ずっと住んでいるとそれが当たり前になってしまって、地元で農産物がとれるという、ありがたみが薄れてきている感じがするので、地元の農産物のPRは今後も取組んでいただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>6 その他</p> <p>今後の審議会のスケジュールについて、今回はリーディングプロジェクトの達成状況の報告を行い、今回頂いた意見を参考にしながら、計画改定案を作成し、10月頃に第2回環境審議会を開き、その中で審議していただく予定としている。また、第2次エコオフィス計画については、市役所での温室効果ガス総排出量削減に積極的に取り組む実行計画であるが、平成29年度までとなっており、平成29年度中に第3次エコオフィス計画を策定する予定であり、審議していただきたいと考えている。</p>

7 閉会

以上，会議の内容に相違ないことを証明する。

平成28年6月14日

平成28年度第1回ひたちなか市環境審議会 会長 蝦名 不二夫